

出来事ファイル (No.23-1)

デゴイチライトアップに想う

NPOあいあいネット神戸 代表理事 木村 由巳子



D51の来歴:1978年7月13日元町三越前広場で、D51蒸気機関車取り付け工事が完了し、除幕式が行われた。神戸ライオンズクラブの創立25周年記念行事の一環として、国鉄及び神戸市に働きかけ、実現したものである。この式典並びに祝賀会の主催者は神戸市と神戸駅周辺開発促進連合会で、神戸市からはD51グリーン広場(現きらら公園)にD51機関車が景観を添えたことを高く評価され、西元町の人気を集めて繁栄に寄与するだろうと賞賛された。(神戸LCレター1978年9月号より抜粋)

除幕式を終わると三越5階食堂で盛大な祝賀会が執り行われ、宮崎市長、八田大鉄局長のご挨拶があり、白鶴寄贈の清酒の酒樽を割って賑やかな宴会になったそうです。1982年8月(日付は神戸LCレターより)何かの都合で現在地(我が国最古の跨線橋「相生橋」跡)に移設されて40年になります。NPOあいあいネット神戸は、元町の西国街道としての歴史に魅せられ、西元町に事務所を開設して22年経ちました。2017年から始まった「みなと元町タウン協議会」の神戸駅東地区クリーン作戦に参加させていただいた際、デゴイチが雨ざらしで錆が浮き、草ボウボウでゴミの不法投棄もある状態を見て涙が出ました。旧国鉄職員で鉄道ファンとのつながりが強い飯野氏との奇跡の出会いをきっかけに「D51を守る会」を作り、代表になっていただき、早速2ヶ月に1回の整備塗装のボランティア活動を始めました。活動の都度、デゴイチ広場管轄の神戸市文化スポーツ局文化交際課に報告相談をさせていただいていたのですが、この度、建設局駅前魅力創造課のJR神戸駅周辺の再整備が始まり、「観光資源であるD51のライトアップ等を行い、D51広場の高質化を図る」と連絡があったときには、嬉しさで胸が一杯になりました。

みなと元町タウン協議会様のご支援で、第1回目のデゴイチまつりを令和元年10月に開催させていただき、令和3年12月には各社様のご寄付と神戸市の「商業者による賑わい・魅力発信活動支援事業補助金」で、第2回目を開催できました。

第3回目予定の昨年は、資金の調達がままならず、頓挫しました。今年は何とか開催できたらと思っています。

神戸駅が東海道本線の終点であるという地の利を生かし、今できることを行っていけば、広く全国に知られ、神戸・元町をクローズアップする存在になると信じます。デゴイチを守る会のスタッフ一同、これからも貴重なSLを保存する活動を続け、地域のアイドルに育てたいと張り切っています。これからも皆様のご支援をよろしくお願い致します。

■もとまちハーバークリーン作戦

もとまちハーバー懇談会では、12月7日(水)正午12時から地域一帯のクリーン作戦を実施した。(株)ベルコから5名、ネットヨタ兵庫(株)から20名、奈良山会長、あいあいネット神戸木村由巳子、エスタシオン・デ・神戸、そして今回は、いそがみ障害者相談支援センター、たちばな障害者相談支援センター、アイ・ワークス神戸三宮、就労移行支援事業所あそライフ、アルスマイル、ウィズ・ユー神戸、サンヴィレッジ三ノ宮センター、ディーキャリア三宮オフィス、ピークス神戸、ベーシックアカデミー、マイワーク、リタリコワークス三宮、ワークステーションパピヨン、中央区役所、中央区社会福祉協議会から84名の参加がありました。



ネットヨタ兵庫(株)のみなさん



株ベルコのみなさん



奈良山会長、あいあいネット神戸、エスタシオン・デ・神戸、中央区社会福祉協議会関係のみなさん

□読者プレゼント

観覧ご希望の方は、展覧会名と住所・氏名・年齢・本紙へのひと言を添え、本紙編集部までハガキでお申込み下さい。先着順で2名の方にペア招待券をお送りします。

◎春日大社 若宮国宝展 一祈りの王朝文化一

藤原摂関家をはじめとする平安貴族が若宮神に奉納した太刀や弓、飾り物など、当時最高峰の技術を集めた工芸品(国宝等)を一堂に集め、壮麗な王朝文化の世界を感じていただきます。

会場:奈良国立博物館 東・西新館
会期:12月10日(土)~1月22日(日)
☎050-5542-8600



金鶴洲浜台 現代 令和4年(2022年) 奈良・春日大社



栄町通まちづくり委員会は、12月9日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(株)イーエスプランニング)尾崎温大、(石倉デザイン)石倉伸吾、(神戸市)西尾俊広、(こうべまちづくり会館)木原正剛、(神明倉庫(株))藤尾憲弘・大西登紀子、(兵庫県信用組合)藤本吉英・野瀬千智・川口はる菜、(広島銀行)曾我部真介、(三鈴マシナリー(株))野田常美、(新光明飾(株))藤田直之・西村友博・大森貴美子、(佐田野不動産(株))佐田野宏之以上、15名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



神戸元町 商店街 音楽座 1月

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

1月15日(日)~1月17日(火)「神戸の災害と復興」展
1月19日(木)~1月24日(火)ろうきん公募写真展(展示は20日~)

◇元町映画館(有料) TEL366-2636

1月 1日(日)~1月 6日(金)「七人楽隊」
1月 1日(日)~1月13日(金)「セルゲイ・ボンダルチュク生誕100周年記念特集」
1月 7日(土)~1月13日(金)「日本原 牛と人の大地」・「夢半ば」
1月14日(土)~1月20日(金)「殺し屋たちの挽歌」・「眩暈 Vertigo」
「わかりません」(土水金)・「とどのつまり」(日火木)
1月14日(土)~1月27日(金)「あの娘は知らない」・「あなたの微笑み」
1月21日(土)~1月27日(金)「少年たちの時代革命」・「ippo」
1月21日(土)~2月 3日(金)「裸のムラ」
1月28日(土)~2月 3日(金)「理大囲城」・「フタリノセカイ」
「素晴らしき日々も狼狽える」
1月28日(土)~2月17日(金)「チョコレートな人々」
【予定は変更になる場合がございます。】



発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

ミニシアターが街にもたらすもの

元町映画館 支配人 林 未来



で600館近くある映画館のうち、ミニシアターは130館あまりと存在感は決して大きくない。シネコンと大きく異なるのは、そのラインナップ(上映作品)だ。ミニシアターでは、制作国やジャンル、内容において非常に多様な作品を上映する。既存の常識が揺るがされるもの

第二次世界大戦中の激戦地かつ飢餓地獄であったニューギニア戦線から生還し、自らを「神軍平等兵」と称し戦争責任を追究し続けた奥崎謙三の破天荒な言動に密着したドキュメンタリー『ゆきゆきて、神軍』(1987年)で国内外で高い評価を受け、いまだ終わらない水俣病の裁判闘争を続ける人々に20年寄り添い続けた372分の一大叙事詩『水俣曼荼羅』(2021年)が最新作となる映画監督・原一男。そんな原監督が、れいわ新撰組の選挙戦を追った『れいわ一揆』(2019年)公開時、元町映画館でトークをされた際に言われた「ミニシアターのある街では(保守)より(革新)が強い」という言葉が、強く心に残っている。同様に上映で訪れた宮城県フォアラム仙台の支配人と対話で出た言葉だそうで、ミニシアターで映画を観て世界を知り・学んでいる人たちは、提示されたものをそのまま受け取るだけでなく「その奥には何かがあるのか?」と考える力を自然と身につけていると話された。

では、ミニシアターとはいったいどんな映画館を指すのか。その正確な定義づけは難しいのだが、「シネコンではない」映画館」といえばイメージしてもらえらるだろうか。全国

原監督はまた、「映画作家は作品を通して観客を育て、また観客は観た作品を

批評することで作家を育てる。その相互作用により文化は向上していく」とも話された。ミニシアターが街にもたらす作用、街に存在する意義を言葉ではつきりと聞いたのはこの時が初めてで、この先もしっかりと胸に抱きながら仕事していこうと強く思った。ミニシアターの特徴としてよく言われることに(スタッフと観客の距離の近さ)があり、観た映画で感じたことをスタッフに話してくださるお客さまも多い。また、映画館が独自にトークなどのイベントを企画しているのもミニシアターの特徴のひとつだ。それらのコミュニケーションで育まれるものもあるのだろう。

元町映画館は、2010年に元町商店街に開館して13年目になる。2023年も多様な価値観の作品を上映予定だ。1月には、陸上自衛隊の日本原演習場で牛を飼い田畑を耕す内藤秀之さん一家を追った『日本原 牛と人の大地』や、北陸の保守王国・石川県を舞台に政治家、公務員、マスメディアの姿から日本社会のパターンリズム(家父長制)を浮かび上がらせる『裸のムラ』、また2019年の香港民主化デモを題材に制作され、本国で上映禁止や身の安全のため監督らの名を匿名とした『少年たちの時代革命』『理大囲城』などの上映を予定している。

コロナ禍により苦しい運営状況が続いているが、神戸の街に元町映画館があることの意義をしっかりと見つめ伝えていきたい。



<p>みなと元町タウンニュース</p>	<p>2023年(令和5年)1月1日</p>
<p>海という名の本屋が消えた (110)</p>	<p>平野義昌</p>

西村旅館(2)

1920(大正9)年7月西村貫一・マサ夫妻は神戸港から旅立つ。約束の世界一周旅行。長女春子と長男雅貫は留守番。貫一はフランスでルイ15世時代の壁掛けなど稀少な布や美術品、アメリカで石油発動機とスチームラジエターを購入。マサは記念の宝石を希望したが叶えられず。註1

欧米ホテル研究も旅の目的。〈ホテルは夫婦で経営すべきものであるというので、各国を夫婦連れで歩いて廻った。その時のロンドンを記念する意味で今の次男が生まれたときに倫敦という名をつけた。〉註2

21(大正10)年春帰国、12月「倫敦誕生(戦争中「雅司[まさもり]」に改名)。

子の話が出たので、貫一のスパルタと親バカぶりを紹介。春子の英語学習のためアメリカ生まれの二世を家庭教師にして英語漬け。雅貫が泣けば近くの川に放り込み、中学時代写真に興味を示すとカメラ店の全品買い占めて分解・研究させ、ピリヤードを始めると東京の名人に弟子入りさせようとした。18〜19歳頃には帳場を任せ、大物客への挨拶と1時間話すことを課した。仕事で失敗すれば人前でも額を小突いた。性教育のため病院で花柳病検査・手術見学、茶屋遊び推奨、恋愛奨励。大学進学資金で世界旅行を勧めた。註1

貫一は多趣味でそれらを極める。よく知られるのはゴルフ(他の趣味のことは稿を改める)。プレイだけではなく、公衆への普及と文献蒐集・研究にも力を注いだ。

まず、神戸とゴルフの話から。1901(明治34)年六甲山上にイギリス人貿易商アーサー・ヘスケス・グルーム(1846〜1918年)(補註1)がゴルフコースを造った。03(明治36)年「神戸ゴルフ倶楽部」創設。冬は山上でプレイできない。愛好家は年中したい。04(明治37)年ウィリアム・ジョン・ロビンソン(1852〜1931年)が武庫郡魚崎町横尾(現在神戸市東灘区魚崎町)の借地に「横尾ゴルフ・アソシエーション」を造る。13(大正2)年立ち退き。翌年ロビンソンは同町鳴尾村(現在西宮市)の競馬場跡地(鈴木商店所有)を借り「鳴尾ゴルフ・アソシエーション」を造る。註3

18〜19(大正7〜8)年頃から日本人のお金持ちが参加し始めた。

西村夫妻は新婚旅行で「スコットランドのゴルフコースに魅せられて」(註4)、帰国後西灘の自宅に同好者を招き、熱中した(補註2)。すぐに鳴尾ゴルフ倶楽部と舞子ゴルフ倶楽部に入り、23(大正12)年神戸ゴルフ倶楽部にも入会。日本一を目指す決意、生活はゴルフ中心となる。子どもの登校時間は前日のプレイ疲れで寝ているし、下校時にはゴルフで留守。来客があっても顔を見ず話もせずグリップのひも巻き(註1)。シングルハンディキャップまで寝室は別(註4)、という徹底ぶり。

女性プレイヤーはまだ僅か、男性上級者は初心者とプレイしたくない。そのうえ貫一は常日頃から歯に衣着せぬ物言いで敵も多かった。貫一はマサ上達のため頭を下げて一緒に回ってもらった。註5

24(大正13)年始、夫妻は香港・上海にゴルフ旅行。同年貫一は鳴尾ゴルフ倶楽部主将に推薦され、委員と共にコースを設計。また、帰国するイギリス人愛好家からゴルフ文献を購入、蒐集と研究を開始する。

25(大正14)年マサは関西婦人ゴルフ倶楽部

みなと元町タウンニュース

海という名の本屋が消えた (110)

創立委員に就任。同年貫一茨木カンツリー倶楽部初代チャンピオン、マサは神戸ゴルフ倶楽部婦人選手権で日本人初優勝し、以後五連覇を果たす。

29(昭和4)年3月貫一はスポーツ雑誌「アサヒスポーツ」に「ゴルフ民衆化。公衆ゴルフ場ヲ作レ」を寄稿(註6)。30(昭和5)年9月『日本のゴルフ史』(文友堂、小山敬三装幀)(補註3)出版、グルームの功績と神戸ゴルフ倶楽部を中心にまとめた。植物学者・牧野富太郎(補註4)が序文を寄せている。

この頃ベビーゴルフが流行し、専用施設が続々開場。パターだけを使用、広い場所はいらず、屋外でも室内でも可能、低料金で老若男女が楽しめる。貫一の唱えるゴルフ民衆化に最適だった。31(昭和6)年1月『趣味のベビーゴルフ』(文友社)出版。欧米のベビーゴルフ場やプレイの様子を写真(1928〜30年、撮影者不明)で紹介し、その面白さを伝えた。巻頭に「ベビーゴルフの格言　都会の緑地」(ラテン語、英語も)を掲げる。

同年貫一は旅館北側の三階建て旧家屋を取り壊した。5月自ら設計して「栄町ベビーゴルフ場」を開設。料金は1ラウンド20銭、回数券を買うと1ラウンド10銭(当時コーヒーが10〜15銭(註7))。神戸新聞が「革命的なベビーゴルフ場」(註8)と紹介した。6月末同社主催「全神戸ベビーゴルフ大会」(市内7会場全119ホールを巡回)(写真)。11月第二回大会他、カフェーのウエイトレス、芸妓、ダンサー各競技会開催(同社主催)。華やかな女性を取り込んだ。同紙面は「ベビーゴルフニュース」やゴルフ場広告をたびたび掲載。

同年8月下旬、貫一は「神戸新聞」に「六甲を描く」(小山敬三画、全5回)を寄稿、六甲山上の風景を紹介する。第1回で『『都会の緑地』栄町ベビーゴルフ場』(註9)をPR。第4回はゴルフ場の絵(『日本のゴルフ史』表紙絵と同じ)とグルームの六甲開墾。〈狐や猿の様な野獣が横行していた山頂に明治二十八年彼は初めて日本人と契約を結び家を建て散歩には鋸と鉄を常に手にして自分の土地、他人の土地に拘らず吾が庭の如く綺麗にしました。公道に石塊が飛び出ていると掻き集めその上に白砂を撒きました。(中略)さて現在の六甲?／＼大多数は日本人然(しかも)ゴルフを遊ぶ人も日本人が占めています。(後略)〉註10

日本人が山頂に来るようになると、彼らは家に錠前、境界にトゲトゲの針金を設置した。

歌人・土屋文明(1890〜1990年)が詠んだ六甲山。〈六甲の峰はいづくに尽くらむ行けば行く先の高き草山〉〈草山にゴルフを遊ぶ男女富人がともに楽しめるべし〉〈無産主義に吾はあらねど草山はゴルフリンクに遮断されたり〉註11

30(昭和5)年文明は神戸の友・加納暁(1893〜1930年、「アララギ」選者、貿易商)追悼会に来神。その際六甲山に登った。散策の道はゴルフ場に遮られた。世の中は不景気だというのに、お金持ちは山上で楽しく遊んでいる、と風刺した。27(昭和2)年昭和金融恐慌、29(昭和4)年世界大恐慌の時代である。

31年9月貫一はクレーンと翻訳・解説した『ゴルフの規則』(文友社)を出版。註7

同年12月「神戸新聞」に「民衆的上ヶ原ゴルフ場生る　ゴルフは民衆的スポーツ」を寄稿。

ゴルフはスコットランドでもアメリカでも一般民衆の娯楽であること、グルームも日本の民衆に広めようとしたこと、このたびサンフランシスコの大会に出場した日本人選手3名は金持ちではなくゴルフボーイ(キャディ)出身であること、一流選手への道は少年期から始めるだがゴルフは広大な土地、多大な人手と金もかかること、あらゆる競技は社会一般民衆の理解と後援がなくては進歩発達しないことなど。しかしながら、6月西宮市に開業した同ゴルフ場では若い人たちが楽しくプレイしていて、貫一はゴルフ民衆化を確信していること。さらに公衆ゴルフ場出現を心待ちにすることなどを述べている。〈外国では県なり市なり或は個人団体なりが公衆ゴルフ場を開設して、極僅少な費用でゴルフの出来る運動を起しています。〉註12

同時に技術指導も書き添えているが、私は門外漢ゆえ省略する。

- 註1　芦田章「神戸奇人伝」(『歴史と神戸』58号、1973年)
- 註2　住田正一「海運千一夜物語」明文書房1954年
- 註3　Web鳴尾ゴルフ倶楽部 https://www.naruogc.or.jp/
- 註4　井上勝純『日本ゴルフ全集7　人物評伝編』三集出版1991年
- 註5　西村まさ・雅司「六甲のゴルフや夫貫一のこと」(『神戸ゴルフ倶楽部史』同倶楽部編・発行1966年)
- 註6　西村貫一『西村旅館年譜』自費出版1980年
- 註7　週刊朝日編『値段史年表』朝日新聞社1988年
- 註8　「神戸新聞」1931年5月28日
- 註9　同上8月21日
- 註10　同上8月25日
- 註11　宮崎修二郎「ひょうご歌ごよみ」兵庫県書籍協同組合　1988年
- 註12　同上12月26日

補註1　グルームは長崎グラバー商会にいた兄を頼り来日。1868年神戸支店開設。71年独立、日本茶輸出、紅茶輸入、倶楽部創立時、新聞に広告を出し、内外人を問わずゴルフに興味ある人の出席を求めた。外国人のスポーツ好きについていずれた。

補註2　1920年日本人最初のプロゴルファーになった福井寛治(本名吉太郎)が指導。少年時代に横尾でキャディ。『年譜』は「当時キャディー・ボーイ福井寛次郎」と記載。

補註3　同書は限定版(20円)、特装版(15円)、普通版(10円)の3種類刊行。写真と図171点、全560ページ。小山敬三(1897〜1987年)は長野県小諸市出身、洋画家。小諸市立小山敬三美術館、小山敬三美術振興財団(美術賞授与、修復技術家支援)に名を残す。パリ留学を前に貫一と知り合い意気投合。夫妻は先に新婚旅行に出発したが、香港で下船し、後から来る小山と合流。補註4　18(大正7)年牧野は兵庫津の資産家・池長孟の支援を受け、会下山公園に植物研究所を開く。来神時は同家に滞在したが、長らく研究所及び標本・資料を放置したため関係悪化。以後「西村」に宿泊。貫一は牧野の講演会を開催し、戦後も交流。

(写真)「神戸新聞」1931年5月30日広告。中央の楕円形部が「栄町ベビーゴルフ場」。



2023年(令和5年)1月1日

みなとMIO MACH ケンチクさんぽ vol.17

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

兵庫地域会　地域まちづくり委員会

KOBE ポートタワー・ファンタジー

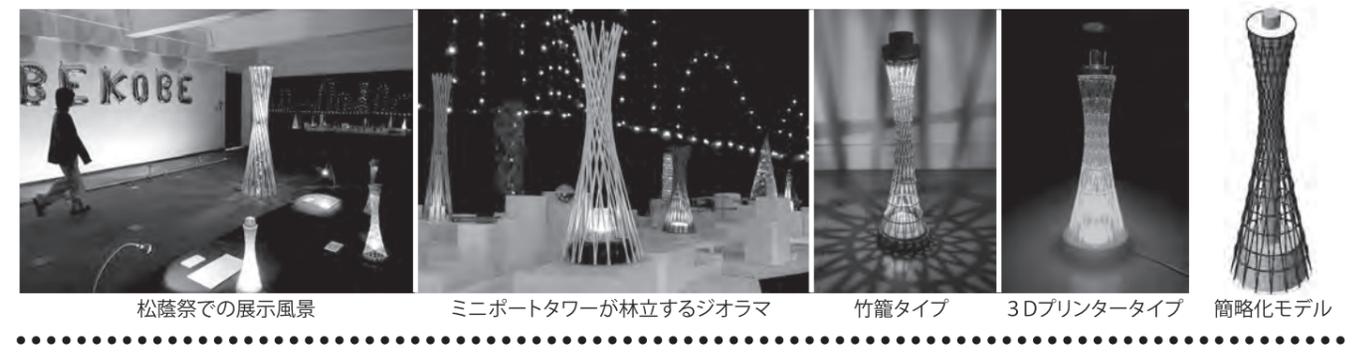
　白く光り輝く2m大のポートタワー。背景には大きな"BE KOBE"の文字。カラフルに発光するポートタワー型の高層ビルが林立するジオラマは、未来都市KOBEの姿か？

　そんなファンタジックな空間演出作品、「KOBEポートタワー・FANTASY」を神戸松蔭女子学院大学でインテリア分野を学ぶ学生たちが制作。11月19日、20日の2日間、開催された松蔭祭で展示しました。

　同大学の私のゼミでは、来たる神戸ポートタワーのリニューアルオープンに向け、地域貢献につなげることを目標に、昨年度から「神戸ポートタワー60th・デザイン活用プロジェクト」に取り組んでいます。

　1963年に竣工した神戸ポートタワーは、そのユニークな曲線美で人々を魅了してきました。このプロジェクトでは、この曲線美がどのように作られているかに着目。まず文献やWEBでの検索、図面調査、閉館前の現地見学などのリサーチを行い、簡略化したモデルを作成。それを照明や家具、雑貨、容器などの身近なデザインに応用し、神戸の街の様々な場所を彩り、活気づけることを目指して、作品制作と提案活動を行っています。

　ポートタワーの外観を構成する鋼管は、基礎の円周上で16組の内傾したV字型に配置



神戸ポートタワーの曲線美が生まれるまで

　神戸ポートタワーは、神戸港の拡充整備に尽力した原口忠次郎市長が、視察したロッテルダム港の展望塔、ユーロマストにヒントを得て発案したもので、神戸港を一望でき、一般市民にも港の重要性を知ってもらう目的で「展望塔」として計画されました。しかしユーロマストとは形も構造も全く異なっています。

　またエッフェル塔や東京タワーをはじめ、多くの高い塔は電波塔として、先端の尖った形をしているのに対し、ポートタワーの場合は展望塔のため、全高より展望台の高さが重要と考えられました。また神戸港の中心で人の流れもある中突堤の狭溢な敷地に建てる

みなと元町タウンニュース

海という名の本屋が消えた (110)

され、それぞれ一直線状に最上部まで貫かれており、それらの直線だけで全体の優美な曲面を形作っていることがわかりました。ちょうどパスタを一束、両手でひねって両端を広げたたように、とてもシンプルな構成です。

　こういった曲線美の構成を知り、私自身も学生たちもとても驚き、改めてこの形に魅了され、夢中になりました。本当にポートタワーは、神戸が誇るべき宝物だと思います。

　しかしこのような構成であることは、一般的には、ほとんど認識されておらず、ポートタワーをモチーフとしたイラストやデザインはたくさんありますが、この優れた造形的特徴を活かしたものは、ほとんど見当たらず、とてももったいないのが現状です。

　ポートタワーのこの特徴ある形は、幾何学的には「一葉双曲面」と呼ばれるもので、この構成と寸法関係がわかれば、さまざまな方法で、簡略化したモデルを作ることができます。まずはCADで3Dモデルを作成。次に立体としても様々な方法やサイズ、素材(竹ひごや紙ストロー他)で再現してみました。

　今回展示した大小さまざまなミニポートタワーは、32本の丸棒と輪ゴムで作る簡略化したタイプのものが多く、この方法は、知人の神戸芸術工科大学教授、スイス出身のジオ

メトリック・アーティスト、カスパー・シュワーベ氏からご教示いただき、アレンジしました。

　また伝統的な竹籠細工の手法を学び、平竹ひごを編んで作った、繊細で陰影も美しいあかりと、3Dプリンターを用いた透明レジンの光造形による「ポートタワーライト」は、4年生がそれぞれ時間をかけて作った作品で、今回あわせて展示しました。

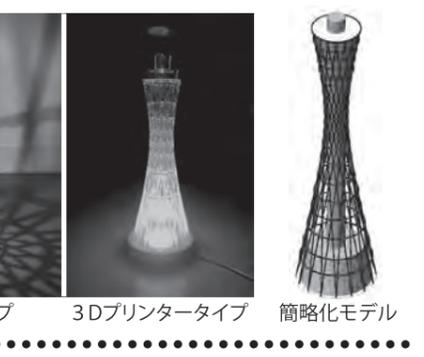
　これらの「ポートタワーライト」は、サイズや素材、カラー、ディテールなど、様々なバリエーションといろんな場所での使用イメージを考えており、今後、提案していく予定です。

　他にも今回、ポートタワー型のシェルフやスツールといった家具、テーブルウェアや花瓶、おもちゃなどの雑貨についても、学生たちがデザインし、図面や3Dパースで表現した作品をパネルで多数展示しました。

　今後は、これらをブラッシュアップして学外でも展示・発表し、公共の場での空間演出やウィンドウ・ディスプレイ、企業連携での商品化にも、つなげていければと考えています。

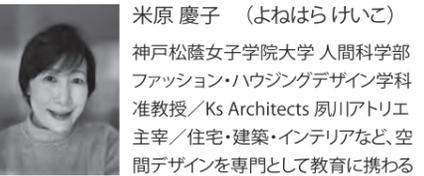
　さらに、この「みなと元町ケンチクさんぽ」を連載中のJIA(公益社団法人日本建築家協会)近畿支部兵庫地域会では、「ミニポートタワーを作ろう!」という、子どもも大人も楽しみながら学べるワークショップを計画中です。

　神戸の街のあちこちに、ミニポートタワーが出現し、街を彩るというファンタジーが、リアルになる入口になればと、願っています。



　れていたものでしたが、このようなプロポーシオンや用途には先例がなく、全く新しい形式として、耐震、耐風圧、接合部の強度や施工方法など、数種の模型実験を含む多岐にわたる高度な技術的検討が重ねられ、美観を追求しながら、設計、建設されました。

　こうした経緯を辿り、当時の関係者の方々へのリスペクトの思いを一層深めています。(参考文献:「神戸ポートタワー」神戸港振興協会編1964)



米原 慶子　(よねはらけいこ)

神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 ファッション・ハウジングデザイン学科 准教授/Ks Architects 夙川アトリエ 主宰/住宅・建築・インテリアなど、空間デザインを専門として教育に携わる